

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

平成28年度事業報告書

一般財団法人NHKサービスセンター

目 次

事業運営の概要	1
広報プロモーション業務	3
1 広報展開推進業務	3
2 NHK番組広報業務	4
3 NHK広報番組制作業務	5
4 NHK番組周知・広告業務	6
(1) 多メディアを活用した広報展開業務	6
(2) 外部団体との相互協力による広報展開業務	6
(3) 写真業務	7
5 番組公開・展示・催物業務	7
(1) NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の運営実施業務	7
(2) 展示・展博業務	9
(3) 催物業務	10
6 放送教育広報業務	10
広報コンテンツ業務	11
7 NHK番組情報誌「ステラ」、 「ラジオ深夜便」 業務	11
8 コンテンツ業務	11
(1) NHK語学講座番組音声テキスト業務	11
(2) コンテンツ制作・販売業務	12
(3) NHK番組記念品業務	13
視聴者サービス業務	13
9 NHKスタジオパーク業務	13
10 「NHKホール」「NHKふれあいホール」 業務	14
11 NHK放送博物館業務	15
視聴者の意向吸収・理解促進業務	16
12 視聴者の意向吸収・理解促進業務	16
社会奉仕業務	17
コンプライアンス	18
その他	19

事業運営の概要

平成28年度は、「平成28～30年度 3か年経営計画」のスタートの年として、今ひとつ盛り上がりや国内景気や出版不況の継続など財団にとって樂觀できない経済状況のもと、経営計画で掲げた基本方針、重点事項の実現に向け、事業運営の重点目標および工程表を策定して、公共放送の周知・普及と番組の広報や視聴者とNHKとの絆を強化する視聴者サービスについてさまざまな事業活動を展開してきた。

主な事業活動は次のとおりである。

広報プロモーション業務

- 広報展開推進室は、広報のプロ集団を目指す財団の窓口機能を果たすため、平成28年7月に新設され、組織を横断した総合力を発揮し、広報展開の戦略・企画の立案、組織間の調整などさまざまな業務に取り組んだ。
- NHKの番組広報業務では、NHKの番組をより多くの人に知ってもらうために、番組の制作発表やお知らせを45回、ロケ・スタジオ取材会を27回、試写会や出演者の記者会見を35回実施した。また、大河ドラマ「真田丸」では、放送内容に合わせたさまざまな切り口で情報を発信し、多くの視聴者の興味が持続するように工夫を凝らした。
- NHKの広報番組制作業務では、「とっておきサンデー」を「どーも、NHK」とタイトル変更し、番組の周知及び公共放送の役割が視聴者により届く演出に努めた。また、地上波スポットでは、1分間に4本の番組を凝縮して紹介する「1分まとめスポット」を制作した。さらに、29年度の新番組「ごごナマ」のパイロット番組の番宣コーナーを担当した。
- NHKの番組周知・広告業務では、各種広報印刷物を作成したほか、大河ドラマや連続テレビ小説で、ホームページ（以下HPと表記）に加えTwitterやLINE等のSNSを活用し、多面的なPRを行った。
地域放送局発ドラマでは、広島放送局制作の「舞え！KAGURA姫」等で各種広報印刷物の作成や取材した記事をまとめた番組HPを制作した。
- NHKの番組公開・展示・催物業務では、NHKホール、ふれあいホールでの番組公開や「ワンワンとあそぼうショー」等の子ども向けイベントを各地で開催。また、8Kスーパーハイビジョンの広報・普及イベントの「パブリックビューイング」をリオデジャネイロオリンピック等で幅広い層に向け実施した。
- NHK番組の展示広報業務では、大河ドラマ、連続テレビ小説の番組紹介パネルや小道具を全国各地で展示し、番組広報に努めた。また、成田空港において、NHKの国際放送をPRする展示ブースを展開、来日外国人にむけて「NHK

WORLD」をアピールした。

- 放送教育広報業務では、若手教師や大学生を対象に「NHK for School 基礎セミナー」を全国35会場で開催し、1,249人が受講した。また、「NHK杯全国中学校・高校放送コンテスト」の事務局を運営した。

広報コンテンツ業務

- 「ステラ」編集業務では、番組情報誌「NHKウイークリーステラ」を50号発行、月刊誌「ラジオ深夜便」を12号発行した。また、ステラMOOK「とと姉ちゃんメモリアルブック」「べっぴんさんメモリアルブック」「ラジオ深夜便ファンブック2017」を発行した。
- コンテンツ業務では、NHK語学講座番組の音声テキスト単体CDの発行数は、55万6,000部で、27年度比▲9万6,000部と大きく部数を減らした。また、NHK音源を活用して、NHKCD「甦る！NHKラジオ歌謡」「八代目橘家圓蔵」「NHK新・落語名人寄席 十二か月」等を発行した。なお、N響90周年を記念したNHKCD「N響世界一周旅行1960」は、文化庁芸術祭賞において優秀賞を受賞した。

視聴者サービス業務

- NHKスタジオパーク業務では、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに合わせ、スタパ全館で体験型の『スタパ・スポーツまつり(8/1~9/19)』を開催し、リオ五輪の放送PRと2020年に向けて気運を高めることができた。なお、年間来館者数は59万5,000人と、リニューアル後では『あまちゃん』効果で来館者が急増した25年度に次ぐ2番目に多い数字となった。
- NHKホールは、NHKの公開番組や各種コンサートを実施し、年間で62万人余の入場客があり、利用料収入である副次収入は2億6,000万円余だった。また、開館以来の総入場者数が、29年2月19日に3,000万人を超えた。NHKふれあいホール入場者数は、番組観覧・イベント参加者等の年間累計で4万人余となり、27年度比で28%増加した。
- NHK放送博物館業務では、28年8月から試験放送が開始された8Kについて、放送番組と連動したトークショーや講談の会を企画し、放送博物館独自の8Kビューイングとして10月から毎月4回程度実施した。28年度の入館者は、107,463人であった。また、放送博物館が開館60年を迎えたのを期に、「放送博物館の60年」を発行した。

視聴者の意向吸収・理解促進業務

- 視聴者の意向吸収・理解促進業務では、電話、メール、手紙等の対応件数は、

ふれあいセンター（放送）で101万8,000件。また、平成23年度開始のNHK管理職（D3昇格者）対象の「CS意識向上研修」は、9月に受講者累計が1,000人を超え、視聴者対応を学ぶ貴重な場としての評価が高い。

社会奉仕業務

月刊誌「ラジオ深夜便」の全国の老人福祉施設への寄贈や、（社福）日本点字図書館の点字週刊誌「NHKウイークリーガイド」の編集・発行への助成に加えて、「NHK全国中学校放送コンテスト」等をNHKほかと主催した。

コンプライアンス

- リスクマネジメントとコンプライアンス推進活動については、リスクマネジメント委員会において、年次活動計画の「工程表」を策定し、四半期ごとに進捗状況の検証を行うとともに、当初計画の変更・追加に合わせて次の四半期の「工程表」を更新し、着実な実施を図った。
- NHKのコンプライアンスルールへの適合性強化に向けて、「外部記録媒体の財団貸与パソコンへの接続制限」「電子メール等の保存管理期間の3年化」「タクシー利用券使用要領の一部改定」等に取り組んだ。
- 内部監査室では、本部は編集・制作部門の3か所と、管理部門として初めて経営企画室経理部を監査した。また支局は広島支局・松山支局を監査した。27年度からの2年間で、組織のほぼ半数の部署の監査を終えた。

28年度の業績については、事業収益は104億4,300万円で、予算の99億8,100万円に対し、4億6,200万円の増収、対前年度比で3億800万円の増収、正味財産期末残高7,600万円増額の黒字決算となった。

広報プロモーション業務

1 広報展開推進業務

広報展開推進室は、組織を横断した総合力を発揮し、財団広報業務の窓口、広報展開の戦略・企画の立案、組織間の調整、支局業務の支援等の業務を行うための組織として昨年7月1日に設置され、下記の業務を実施した。

- 2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部が募集したイベント等の企画「⇒2020プログラム」をとりまとめて提案し、一部は新年度業務として受託した。また、「大河ドラマ」や「連続テレビ小説」では、外部団

体との相互協力業務を推進したほか、ドラマの舞台となった地域放送局の視聴者サービスや、広報業務の受注をコーディネートした。

- 「地域発ドラマ」においては、各部・支局等と連携して、各種広報資材の制作業務の受注を推進した。
- 「@NSC__PR」を四半期ごとに発行。財団が展開する多彩な業務の一端をNHKグループに広報した。また、広報業務等の最新情報を収集し、共有化を図るため、「広報展開推進室通信」を随時発信した。
- 各部の若手で構成された「広報展開推進チーム会」を運営し、情報の収集と共有化を図ったほか、「変身！バーチャル・スタジオ」の企画を具体化し、新年度、スタジオパークに設置する。

2 NHK番組広報業務

(NHK番組の新聞・雑誌等のメディアへの広報業務)

- 2020年に世界最高水準の放送サービスを目指すNHKの番組を、より多くの人に知ってもらうために、番組の制作発表やお知らせを45回、ロケ・スタジオ取材会を27回、試写会や出演者の記者会見を35回実施するなどメディアに向けて積極的な広報展開を行った。
- 大河ドラマ「真田丸」では、放送内容に合わせたさまざまな切り口で情報を発信し、多くの視聴者の興味を持続するように工夫を凝らした。また、番組に関係する地方自治体、地域放送局、地方紙や地域情報雑誌などと番組イベントを通じて連携し、常に番組情報を発信し続けた。
- Eテレでは新番組を中心に、チャレンジ精神にあふれた内容の番組をアピールし、新聞各紙や趣味・情報系雑誌で“攻めのEテレ”というチャンネルイメージを定着させ、視聴者にその魅力を余すところなく伝えた。
- 衛星波では、BSプレミアムの長時間大型企画「ザ・プレミアム」など、本物志向の視聴者のニーズに応える番組を中心に、波の特性を生かした広報展開に力を入れた。
- ウイークリー「NHKおすすめ番組」「FMウィークリー」を平成28年度第4号から平成29年度第3号まで発行。「年末年始特集号」などの特集番組紹介冊子を年3回編集発行した。

3 NHK広報番組制作業務

(NHKの番組内における広報番組の制作業務)

○ 広報番組・スポットの制作本数

種 別	年間本数	内 訳
地上波広報番組	374	「テレビ大好き」36「NHK プレマップ」10 「もうすぐ9時プレマップ」207「どーも、NHK」38「BS コンシェルジュ (通常版)」45 「渋谷 DE どーも 2016 を楽しもう！」2「BS コンシェルジュ (地域発ドラマ版)」3「第14回ミニミニ映像大賞グランプリ決定」1「あなたのやさしさを2016 (たすけあい関連番組)」1「ごごナマ (パイロット版) 番宣コーナー」1ほか特番30
地上波スポット	179	「1分まとめスポット(夏特版)」10「2016 歳末・海外たすけあい告知スポット」20「週末1分まとめスポット【土日】」44「ここに公共放送」13ほか92
地上波クラッチ	58	「地上波クラッチ」15「リオオリンピック&パラリンピッククラッチ」32ほか11
BS スポット	2,325	「BS スポット」2,325
BS クラッチ	79	「BS クラッチ」79
BS 広報番組	28	「東京下町ほっこり散歩」1「キズナでチャレンジ」17「ようこそ冬の東北キャンペーンミニ番組」6ほか4
ラジオ・4K8KSHV・その他	35	「とっておきテレビ」12「ラジオ深夜便・地域発ドラマ」2「SHV ミニ番組『子犬・子猫の日常』」16ほか5
合 計	3,078	

○ 総合テレビでは、「とっておきサンデー」を「どーも、NHK」とタイトル変更し、番組の周知及び公共放送の役割が視聴者により届く演出に努めた。

「BS コンシェルジュ」はドラマ番組の舞台になった地域でイベントの一環として収録する特集を3本制作した。次年度の新番組「ごごナマ」のパイロット番組の番宣コーナーを担当した。

○ 地上波スポットでは、1分間に4本の番組を凝縮して紹介する「1分まとめスポット」を制作した。その他「受信寮の人々」「いじめダメ、ゼッタイ！

(AC共同キャンペーン)」「2016歳末・海外たすけあい」「ここに公共放送」など公共放送への理解を促す多様なスポットを制作した。

- ラジオでは新たに「ラジオ深夜便・地域発ドラマ」を制作。4K・8Kスーパーハイビジョン試験放送ではミニ番組「子犬・子猫の日常」を制作した。
- 放送波を超えた取り組みとして「リオデジャネイロオリンピック&パラリンピック」、8月から開始された「4K・8Kスーパーハイビジョン」の試験放送を紹介する番組やスポットを制作した。また、各種キャンペーンや番組プロモーションを多様なメディアへ展開するための窓口業務を担った。
- 大阪支局では543本のスポットを制作した。

4 NHK番組周知・広告業務

(印刷物、電子媒体等によるNHK番組の周知業務)

(1) 多メディアを活用した広報展開業務

- 「BSガイド」の編集制作や「ランスマ」「チャリダー」「TOKYOデビュー」など、BS番組PR用印刷物を作成した。また、「NHK__PR」では、BSシネマの特設コーナーを作り、番組視聴の促進に寄与している。
- Webを活用した番組周知では、広報サイト「NHK__PR」により多様な番組情報を伝えている。また、大河ドラマや朝の連続テレビ小説では、HPに加えてTwitterやLINE等のSNSによるPRを実施した。
- 地域放送局発ドラマでは、広島局制作の「舞え!KAGURA姫」と山口局制作の「朗読屋」では、各種広報印刷物を作成するとともに、番組HPを制作した。
- フレッシュヤーズキャンペーンとして、主に18歳から23歳の若者をターゲットに、スマホをメインとしたPRサイト「キュン活!ほっとらいん」を制作し、受信料に対する理解と受信契約に結び付けた。
- 国際放送の周知に向けて、ガイドブック、チラシ等各種印刷物を作成したほか、成田、羽田など各地の国際空港で広報展開を実施した。
- リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック放送の周知に向けて、観戦ガイドなど各種印刷物を作成し、交通広告展開を実施した。さらに、パラリンピックに関してFacebookとTwitterによる広告を実施し、番組とサイトの認知度の向上を図った。

(2) 外部団体との相互協力による広報展開業務

- 大河ドラマ「真田丸」「おんな城主 直虎」、連続テレビ小説「ひよっこ」の舞台地の自治体や公共交通機関との相互協力によりポスター、冊子、ラッピングトレイン等の広報展開を実施した。

- 「ためしてガッテン」等の健康番組の番組情報をもとにした冊子「肌のトラブル対処術」を外部団体との相互協力で発行し、番組広報の一助とした。

(3) 写真業務

- ポスター、パンフレットなど番組周知印刷物、「NHKウイークリー ステラ」、番組広報写真等の撮影のほか、NHK出版のドラマガイド等の撮影やNHK交響楽団定期公演の撮影業務も継続して実施した。

5 NHK番組公開・展示・催物業務

(1) NHK公開番組、教育・ファミリーイベント等の運営実施業務

- NHKホールでの公開番組等

実施項目	件数・日数	入場者／人
定時公開番組	41(57)	112,858(162,257)
特集・企画番組	38(31)	82,684(60,431)
合計	79(88)	195,542(222,688)

()内は27年度

- NHKみんなの広場ふれあいホールでの公開番組等

実施項目	件数・日数	入場者／人
定時公開番組	70(69)	16,014(15,528)
特集・企画番組	33(28)	7,565(5,974)
その他(公開番組・イベント等)※1	104(78)	18,592(11,395)
合計	207(175)	42,171(32,897)

※1 その他にはNHK人事局・営業局・広報局等による施設利用を含む。

- 都内派遣番組等

実施項目	件数・日数	入場者／人
都内派遣番組	10(13)	9,339(9,640)
東京落語会(会員制・有料)	12(12)	6,257(6,132)
合計	22(25)	15,596(15,772)

- 関東甲信越各放送局支援(公開番組等の実施・運営)

実施項目	件数	備考
南3局(横浜、千葉、さいたま)支援	23(21)	一部支援14、拡大支援9
北3局(前橋、水戸、宇都宮)支援	0(0)	
甲信越3局(長野、新潟、甲府)支援	2(0)	拡大支援2
合計	25(21)	一部支援14、拡大支援11

○ ファミリーイベント

実施項目	件数・日数	入場者／人
おかあさんといっしょファミリーコンサート<春>	4 (4)	25,545 (25,247)
おかあさんといっしょファミリーコンサート<秋>	4 (4)	25,166 (25,152)
おかさんといっしょ宅配便 (ポコポッテイト小劇場、ガラピコぷ〜小劇場)	52 (58)	51,326 (52,119)
ワンワンとあそぼうショー	95 (92)	230,133 (185,309)
どーもくんショー	5 (8)	2,071 (21,774)
つくってあそぼショー、ゴロリとあそぼショー	1 (2)	870 (1,230)
ルルロロわくわくコンサート	0 (3)	0 (3,600)
その他キャラクターショー等	17 (15)	12,153 (11,820)
合計	178 (186)	347,264 (326,251)

○ 8Kスーパーハイビジョンの広報・普及イベント

2020年に本放送開始を控えた8Kスーパーハイビジョンのプロモーションイベントとして、「リオデジャネイロオリンピック」での大規模展開ほか、幅広い層に向けた数々のパブリックビューイング等を実施した。

実施項目	会場	期日・期間	入場者／人
リオデジャネイロオリンピック スーパーハイビジョンパ ブリックビューイング *8/1~8/5、8/23~8/28 は試験放送コンテンツ	NHKふれあいホール	8/1~8/22(22日間)	6,168
	丸ビル MARUCUBE (千代田区)	8/1~8/22(22日間)	45,653
	パナソニックセンター(江東区)	8/2~8/28(26日間)	24,914
	NHK放送博物館	8/6~8/22(15日間)	3,658
	NHK放送技術研究所	8/6~8/22(11日間)	918
8Kスーパーハイビジョンシ アター	NHKふれあいホール	9月~3月 毎月1回 (のべ16日間)	4,653
8Kスーパーハイビジョンシ アター	SKI Pシティ (川口市)	11/3~11/6(4日間)	344
8Kスーパーハイビジョンシ アター	イオンシネマ港北 (横浜市)	12/30~12/31(2日間)	300
8Kスーパーハイビジョンシ アター大相撲初場所・春場所、 選抜高校野球ほか	千代田放送会館 (千代田区)	1/21~1/22(3日間) 3/24~3/26(3日間) 3/30、4/1(2日間)	657
合計		126日間	87,265

*27年度とは実施項目・内容が異なるため実績比較値は掲載していない

○ BSの広報・普及イベント

「トライBS〜記念フォトゲット〜」をNHK主催・共催のスポーツイベン
トや公開イベントなどで実施し、BSの普及と受信料制度の理解促進を図った。

実施項目／イベント名（会場）	日数	参加者／人
渋谷DE どーも 2016（放送センター） 第18回国際バラとガーデニングショウ（埼玉・西武プリンスドーム） 技研公開 2016（世田谷区・NHK技術研究所） NHK WONDER LAND 2016（千代田区・ベルサール秋葉原） 防災パーク 2016（放送センター） Nスポ！2016（放送センター） NHK文化祭 2016 たいけん広場（放送センター） ふるさとの食につぼんの食全国フェスティバル（放送センター） ほか、日本3大オープンゴルフ選手権や都道府県対抗女子・男子各駅伝ほか NHK共催スポーツ大会会場等、計15会場で実施。	38(33)	13,421 (23,204)

○ 新規業務ほか

実施項目	会場	期日・期間	入場者／人
【ONE OK ROCK 18祭(フェス)】 NHKが推進する「18祭応援プロジェクト」の中心的事業として企画・開催。	大田区・片柳アリーナ	11/13(1日間)	1,128
【NHKコミュニティー・スクール in 南千住】 人口の増加が著しい南千住において、小学校を舞台に、若いファミリーをターゲットにした番組の公開収録やイベントを開催。	荒川区立汐入小学校	12/3(1日間)	3,621
【放送タイムトラベル～あの日あのとき、そして未来へ～】 平成27年に放送90年記念として実施した特別巡回展「放送タイムトラベル」を、体験型コンテンツの充実など内容を刷新して全国各放送局を巡回。	前橋市中央公民館 帯広放送局 北見放送局 横浜放送局 富谷スポーツセンター (仙台放送局)	7/7～10(4日間) 10/15～16(2日間) 10/21～23(3日間) 11/11～13(3日間) 1/21～22(2日間)	3,500 1,600 576 1,994 9,345 合計 17,015

(2) 展示・展博業務

- 大河ドラマや連続テレビ小説の番組紹介パネルや小道具類を全国各地で展示し、番組広報に努めた。
- 「渋谷DE どーも」、「NHK文化祭」、「NHKワンダーランド」などのイベントを企画・運営して、多くの視聴者との交流を推進した。
- 「NHKハート展」や「NHK介護百人一首」の公募と両展の全国巡回などを実施して、NHKが取り組む福祉事業をアピールした。
- スタジオパークでは「大河ドラマ」「連続テレビ小説」のほか、大河ファンタジー「精霊の守り人」ほかの番組展を企画制作し、広報した。

- 成田空港において、NHKの国際放送をPRする展示ブースを展開、来日外国人に向けて「NHK WORLD」をアピールした。
- 「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉展」(4会場)、「生誕100年 ターシャ・テューダー展」(7会場)、「アグネータ・フロック展」(3会場)など、多彩な14企画を全国35会場で実施した。

(3) 催物業務

- 宝くじ文化公演、宝くじふるさとワクワク劇場
 (一財)自治総合センターが社会貢献事業として地方自治体と共催で実施する文化事業の「宝くじ文化公演」(オーケストラを中心としたクラシック演奏会)と「宝くじふるさとワクワク劇場」(お笑い芸人による演芸、地元の方々とトーク、コメディ)の制作委託を受け、全国22会場で実施した。
- 戸田市文化会館文化推進プロジェクト 市民ミュージカル
 10回目を数える今回は、市制施行50周年記念事業の特別企画として劇中の楽曲を全て生演奏とする演出で「The River～二本の樫～2016」を12月4日(日)に上演した。

6 放送教育広報業務

- 「NHK for School ICT活用講座」を全国8会場で開催し、教員441人が参加した。
- 「NHK for School 基礎セミナー」を全国35会場で開催し、教員958人、大学生291人が受講した。
- 教育関連のイベント全国6会場で、展示ブースを出展し、NHK for SchoolのPRを行った。
- ウェブサイト「NHK for School」では、学校向け教育番組やイベントに関する記事等のブログを執筆・更新するとともに、教員向けデジタルコンテンツ「授業力アップ」を公開した。
- 全国放送教育研究会連盟の事務局として全国8ブロックの研究大会や全国大会の運営に関わった。全国大会には1,600人の教員が参加、同組織の研究プロジェクトの活動を支援し、その成果を大会で発表した。全放連の最新の活動状況については、ホームページ「放送教育ネットワーク」で紹介した。
- 「NHK杯全国中学校・高校放送コンテスト」の事務局を運営。都道府県大会の参加者は中学校で649校4,153人、高校で1,664校1万7,563人となった。

広報コンテンツ業務

7 NHK 番組情報誌「ステラ」業務、「ラジオ深夜便」業務

- 「NHK ウイークリーステラ」50号発行(27年度比1号あたり実売1,445部減)、月刊誌「ラジオ深夜便」12号発行(27年度比1号あたり実売130部増)した。ステラMOOK「とと姉ちゃんメモリアルブック」「べっぴんさんメモリアルブック」「ラジオ深夜便ファンブック2017」を発行。
- 「NHK ウイークリーステラ」では大河ドラマ「真田丸」を立体的に楽しむ表紙連動特集を11回企画、さらに「大河ドラマ55年振り返り企画」として2回の特集を組んだ。また「リオ五輪」については開催期間に特集を3回企画した。また、観戦ガイドとして臨時増刊「リオ・オリンピック放送をぜんぶみる!」を発行した。
- 「ラジオ深夜便」では創刊20年にあたりカラーページを増やしレイアウトを見やすく読みやすく変更した。また、本誌の歴史を振り返る創刊20年記念として、表紙絵の中島潔氏を始め本誌に関係した方の「“それから”の生き方を見つめて」と題した企画記事を5回連載した。
- 広告・特別編集部では雑誌広告集稿業務が厳しい中、「ステラ」特別編集版を4自治体(306,000部)・9企業(387,700部)、地域放送局9局(113,000部)へ提供した。

8 広報コンテンツ業務

(1) NHK 語学講座番組音声テキスト業務

- NHK 語学講座番組の「音声テキストCD」(18講座*)を、利用者の学習効果の向上を図るため、番組と連動した内容で毎月発行した。

「基礎英語1・2・3」の発行数は517,500部(27年度比97.7% ▲12,200部)であった。

単体CDの発行数は556,780部(27年度比85.3% ▲95,820部)と27年度から大きく部数を減らした。

また、英語以外のCDについては、後期より(株)NHK出版が書店買取り制を実施したことも影響し、27年度比77.5%と発行数が減少した。

*18講座の内訳(平成28年5月号～平成29年3月号)

英語：〈CD付テキスト〉「基礎英語1・2・3」〈単体CD〉「ラジオ英会話」

「英会話タイムトライアル」「入門ビジネス英語」「実践ビジネス英語」「攻略!

英語リスニング」(以上ラジオ第2)「おとなの基礎英語」(Eテレ)

その他の言語：〈単体CD〉「まいにちドイツ語」「まいにちフランス語」「まい

にち中国語」「レベルアップ 中国語」「まいにちスペイン語」「まいにちロシア語」「まいにちハングル講座」「レベルアップ ハングル講座」「まいにちイタリア語」（以上ラジオ第2）

- ラジオ「アラビア語講座」「ポルトガル語入門」のCDを放送に合わせて発行した。
- CD音源のダウンロード販売を「ラジオ英会話」など18講座で行った。
- 放送番組のダウンロード販売も「入門ビジネス英語」等6講座で実施し、また、(株)NHK出版と共同でスマートフォン向けに「実践ビジネス英語」等18講座をアプリケーションソフトとして配信した
- 3月、NHK出版が行う新サービス「音声ダウンロードチケット」に19講座のCD音源を提供した。

(2) コンテンツ制作・販売業務

- NHK音源を活用して、NHKCD「甦る！NHKラジオ歌謡」「NHK講談傑作選」「八代目 橘家圓蔵」「NHK新・落語名人寄席 十二か月」等が発行した。

N響90周年を記念したNHKCD「N響世界一周旅行1960」は、文化庁芸術祭賞において優秀賞を受賞した。
- 美空ひばりの生誕80周年にあたり「わが永遠の美空ひばり」のCDを制作し、DVD（(株)NHKエンタープライズ制作）と本（(株)NHK出版制作）とセットにした商品を(株)NHK出版から発売した。
- NHKラジオ番組「ラジオ深夜便」関連では、番組からの委嘱を受け“深夜便のうた”の楽曲として年間8曲の原盤を制作・納品した。
- (株)ユーキャンからの依頼を受け、CD講話集として「孫子入門」を制作した。また、(株)ユーキャンが販売する「昭和ラヂオ」（音声プレーヤー付ラジオ）に当時の歌番組やニュース・ラジオドラマなどの音源提供を行った。
- 音声配信事業については27年度比で92.8%。NHK語学アプリによる無料ストリーミング等の影響により語学配信が減少した。
- 独自配信サイト「NSCダウンロードストア」で9月よりNHK語学ユーロ5言語を追加した。
- 通信販売では、CD・カレンダーを中心としたDMを10月に実施した。また、「ステラ」「ラジオ深夜便」の誌上広告や、定期購読者への同梱チラシ等で商品告知をし、販売を行った。
- カレンダーは「NHKワールド」「気象予報士」「NHKラジオ体操・テレビ体操」「CD付NHK名曲アルバムカレンダー」「とっさのひとこと日めくりカレンダー」等を引き続き発行するとともに、「女性の手帳」ラジオ深夜

便「誕生日の花カレンダー」「日記手帳」も販売した。

- NHK放送博物館の展示コンテンツを前期と後期に追加制作した。
- 受託映像制作として、「憲政記念館 企画展映像」「鳥取県山陰海岸ジオパーク 3D映像」「ふなばし三番瀬環境学習館 展示コンテンツ」「いすゞプラザ展示映像」「生活困窮者のための学習支援 DVD用映像」等を制作した。

(3) NHK 番組記念品業務

- 「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHK放送博物館」やNHK各放送局の会館公開等への来館者に対して放送記念品を販売した。
- 「NHKのど自慢」など地方の公開番組の来場者に対しては、「のど自慢せんべい」を新たに商品開発して、視聴者サービスに努めた。
- 「おかあさんといっしょ」では前年度からキャラクターが変更となり、春秋のファミリーコンサートや地方の公開番組「おかあさんといっしょ宅配便ガラピコぷー小劇場」において、新商品を販売し、視聴者サービスに努めた。
- 連続テレビ小説「べっぴんさん」のタイトルロゴやオープニング映像のデザインを担当した清川あさみさんの展覧会を財団が実施するにあたり、チョコレートのオリジナル商品の開発・展開を行った。

視聴者サービス業務

9 NHKスタジオパーク業務

- 来館者数

	入館者合計	有料入館者		無料入館者
		個人	団体	
28年度	595,022人 (106.3%)	136,384人 (101.3%)	16,321人 (98.1%)	442,317人 (108.3%)
27年度	559,879人	134,698人	16,632人	408,549人

・（ ）内の数値は前年比 ・無料入館者は「無料公開デー」入館者を含む

- リニューアルから5年となる28年度は、“クリエイティブラボ”や“はてなルーム”等を改修し、「8Kタイムマシン」や「ガラピコぷー」の巨大立体オブジェを設置するなど各所で改善を行った。また、5月末から1週間を休館にして、館内のパソコン更新工事を実施した。

「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック」に合わせ、スタパ全館

で体験型の『スタパ・スポーツまつり(8/1～9/19)』を開催し、リオ五輪の放送PRとともに2020年に向けて気運を高めることができた。

また、「450st 特別公開」や「350st イベント」など、年間を通してエントランス等でイベントを多彩に実施した。

その結果、年間来館者数は昨年度を上回り、リニューアル後では『あまちゃん』効果で来館者が急増した25年度に次ぐ2番目に多い数字となった。

- 団体施策では、外部駐車場料金の負担やクーポン契約旅行会社へのインセンティブ設定のほか、スタパの展示・催しなどの周知にも努めた。

「はとバス」の定期コースが3行程になり少人数の団体が増える一方で、1月から「うたコン」の団体見学中止など数十人単位の団体が少なくなったこともあり、件数では昨年度を超えているが、入館者数では若干下回った。

また、参加校が減少傾向にある小学校5年生向け「ジュニア学習会」では、全参加校からアンケートをとり今後役に立てるとともに、周知文の送付時期を早めたり、送付先を拡げるなど参加勧奨に努めている。

	団体件数	団体入館者数
28年度	2,493件 (104.2%)	109,894人 (98.4%)
27年度	2,392件	111,692人

この内、「ジュニア学習会」の参加者は116件8,347人となった。

(27年度；123件9,397人)

- スタジオカフェでは「真田丸」関連の「大河ドラマ膳」や「とと姉ちゃん」関連の「深川うどんセット」等の企画メニューを提供した。

また、障害のある方に気軽に利用してもらえるように積極的に取り組み、年明け3ヶ月間で40団体(931人)に対応するができ、団体の担当者から高い評価を受けた。

その結果、レストランの売上げはかろうじて昨年度を上回った。また仕入先の見直し等、積極的な経費節減にも努めた。

NHKホールでは昨年度よりイベント回数が少ない分、シニアイベント等でアルコール販売を行ったほか、パーティーやケータリングの受注に努めた。

10 「NHKホール」「NHKふれあいホール」業務

(1) NHKホール業務

- 28年度は62万2,748人の入場者(27年度比▲6万4,192人)がありNHK公開番組や各種コンサートを観覧した。

なお、NHKホール開館(昭和48年6月20日)以来の総入場者数が、

29年2月19日に3,000万人を超えた。

- NHK使用は148日で27年度より20日増、N響の利用は50日で5日増となった。定例の番組等に加え、有料の「ワンワンわんだーらんど」、
「This is NIPPON プレミアムシアター」の公演が新たに行われた。
- NHK、N響の使用が増え、NHK音楽祭や特集番組などのスケジュール決定が直前になったため外部利用は日数減となり、放送法第20条第3項に基づく外部利用料収入は2億6,024万円（税抜）で27年度に比べ8,000万円の減収となった。
- 照明設備で舞台スポットライト170台とピンスポットライト6台の更新を行った。客席とロビーの安全対策では、天井の耐震対策2年目の工事が行われ、2階ロビーと3階客席天井の改修を実施した。

NHK使用	148日（128日）	外部利用	95日（126日）
NHK交響楽団	50日（45日）	整備保守	72日（67日）

（ ）は27年度

（2）「NHKふれあいホール」業務

- NHKふれあいホール入場者数は、番組観覧・イベント参加者等の年間累計では4万2,255名となり、27年度比28%の大幅増となった。
平成23年度以降、定時番組等の収録数が激減したが、昨年8月に開始した「8Kパブリックビューイング」の開催により、コンテンツの魅力や迫力ある映像などが話題になり、多くの観覧者が足を運んだ。
- 昨年同様に「日本賞」の会場として利用されたほか、NHKの採用に向けた「インターシップ」「人事採用イベント」での施設利用があった。その結果、稼働日数および稼働率の増加に加え、施設の利用方法にも変化が見られた。
- 「リオデジャネイロ五輪」開催期間中はギャラリースペースが仮設スタジオに利用されたので、ギャラリー観覧者は前年を大きく下回った。

ホール：42,255人（+9,358人）	ギャラリー：31,311人（▲7,173人）
----------------------	------------------------

1.1 NHK放送博物館業務

- 28年8月から試験放送が開始された8Kについて、放送番組と連動したトークショーや講談の会を企画し、独自の8Kビューイングとして10月から毎月4回程度実施した。募集は主にNHKネットクラブで行い、イベントとともに博物館自体のPR活動も展開し、知名度の向上を図った。
この結果、初めての来館者が増え、また、特別企画展「東日本大震災」に合わせたアナウンサーの講演会には、20・30代が30%、40・50代

が48%を占め、これまでになく若い世代が会場を埋めた。

28年度の入館者は、107,463人であった。

- 博物館の収蔵品を各地で公開する移動博物館は、28年度は巡回展「NHKタイムトラベル」として実施し、北海道、仙台など全国5会場で、合わせて1万7,000人の入場者を集めた。
- 地域文化の拠点として、放送文化賞受賞者の由紀さおりさんの講演や、慈恵医大と共催で隔月に実施している健康講座、港区が主催している子どもやお年寄りを対象とした博物館訪問イベントなどに積極的に協力した。
- 全国科学博物館協議会や日本博物館協会等の会合に出席し、3年後に京都で開催される国際博物館会議の総会や博物館の未来について講演や話し合いを行い、協議会等の活性化に努めた。
- 放送博物館が開館60年を迎えたのを期に、年史としては20年ぶりの刊行となる「放送博物館の60年」を発行した。
- 企画展は、NHKの博物館でしかできないものという原点に立って、「アナウンサーヒストリー」、「大河ドラマポスター」、「東日本大震災」をNHKのアナウンス室や報道局、放送文化研究所の支援を受けて制作した。

視聴者の意向吸収・理解促進業務

12 視聴者の意向吸収・理解促進業務

- ふれあいセンター（放送）、ハートプラザに寄せられた電話・メール・手紙等の対応件数は、101万8,000件で前年度比2万2,000件増となった。
電話の着座率は95.1%、応答率は94.5%。メールの着信数（英語含む）は21万1,000件で、前年度より2万8,000件増となった。受信当日中の返信率は、前年度比4ポイント減の50%であった。
- 夜間番組の大幅な改定を行った28年度編成、4月14日に発生した熊本地震、7月の参議院選挙と東京都知事選挙などに的確に対応した。
8・9月のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは、競技開始の情報伝達など「2020年東京」へ向けた課題を確認すると共に、アプリなどの様々なデジタルコンテンツへの視聴者対応を行った。
- メールでの問い合わせができない高齢者など「デジタル弱者」に向けて、12月から試験的に、デジタル関連案件の電話対応を開始した。
- 26年度から開始した電話対応業務の地域局との業務連携については、年間の転送件数1万5,635件、1日平均63件となった。危機管理案件の電

話対応の地域局応援を試験的に2回実施し、29年度に本格運用する。

- ハートプラザで中・高生を対象に対応した訪問学習は291件、1,855人。接遇・案内（特別見学）は43件、614人であった。
- 平成23年度開始のNHK管理職（D3昇格者）対象の「CS意識向上研修」は、9月に受講者累計が1,000人（年度末1,144人）を超え人事局の評価も高い。視聴者対応を学ぶ貴重な場であり、さらに内容充実を図る。
- 契約締結・受信料収納手続きの業務委託先に関する苦情については、ふれあいセンター（営業）の平日夜間の受付時間短縮に伴い、平成27年12月から平日夜間（20－22時）の電話転送を開始し、順調に推移している。
しかし、苦情が多い土・日・祝日夜間の電話転送が29年度当初からは実現出来ず、後期からの開始を強く求めていく。

社会奉仕業務

- 月刊誌「ラジオ深夜便」を全国の老人福祉施設に寄贈した。送付部数の合計は8万9,198部。
- （社福）日本点字図書館による点字週刊誌「NHKウイークリーガイド」の発行経費の一部を助成したほか、点字編集資料として「ステラ」と「NHKウイークリーガイド」を提供した。
- 「NHK杯全国中学校放送コンテスト」の主催者に、また「NHK杯全国高校放送コンテスト」の共催者になるとともに、経費の一部を負担した。
- 「放送教育研究会全国大会」「放送教育研究会地方大会」の経費の一部を負担した。
- 「放送教育・ICT教育のあり方に関する調査・研究」として、福島、三重、新潟等の4地域の小・中学校で、「ICTをこどもが活用した演習型授業」「タブレット端末を活用した共同学習」等の課題を意識した授業を行った。
- NHKハートプロジェクトに関連して、「介護百人一首」の作品集の制作経費を財団が負担するとともに、作品集を応募者や一般の希望者へ無償で頒布した。「介護百人一首」の制作部数は1万9,000部。また、無償頒布部数は1万7,362部（28年度末）。

なお、社会奉仕業務は、一般財団法人への移行における公益目的支出計画の実施事業である。

コンプライアンス

1 リスクマネジメント、コンプライアンスへの取り組み

- リスクマネジメントとコンプライアンス推進活動については、理事長を委員長、常勤役員を委員として構成するリスクマネジメント委員会（28年度は12回開催）において、年次活動計画の「工程表」を策定し、四半期ごとに進捗状況の検証を行うとともに、当初計画の変更・追加に合わせて次の四半期の「工程表」を更新し、着実な実施を図った。
- NHKグループ全体の取り組みとして28年度から開始された「関連団体リスク点検活動」の一環として、「関連団体リスク点検チェックシート」による業務プロセスにおける重点リスクの抽出と点検を行った。
また、NHKのコンプライアンスルールへの適合性強化に向けて、「外部記録媒体の財団貸与パソコンへの接続制限」、「電子メール等の保存管理期間の3年化」、「本部・タクシー利用券使用要領の一部改定」、「NHKセキュリティ基盤拡大整備実施計画への参画」、「備品管理要領の制定」に取り組んだ。
- 個人情報保護活動では、「改正個人情報保護法」にNHKグループとして対応するために、NHKおよび関連団体の個人データを取り扱う全組織を対象に実施された「個人情報調査」に対応し、その分析結果報告を受けて、財団の個人情報データベースの管理水準の改善を行った。

2 内部監査の実施

- 28年度は、本部は編集・制作部門の3部署と、管理部門として初めて経営企画室 経理部を監査した。また支局は広島支局・松山支局を監査した。
27年度からの2年間で、組織のほぼ半数の部署の監査を終えた。
- 編集・制作部門の監査が中心だったため、タクシー券の使用やレンタカーの業務上使用の不備が目立ち、改善を提案した。また財団の備品管理要領を定めていなかったため、作成するように改善提案した。
- 個人情報保護監査は、情報システム部と初めて合同で実施した。
- 全社的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。
また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応（内部統制）が実施されていることを評価した。評価の結果、平成29年3月31日時点における当財団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

その他

1 評議員・評議員会

① 評議員 (29年3月16日現在)

氏名	就任年月日	現職等
行天豊雄	25. 4. 1	元(公財)国際通貨研究所理事長
遠藤利男	25. 4. 1	元(株)NHKエンタープライズ21代表取締役社長
坪井節子	25. 4. 1	(社福)カリヨン子どもセンター理事長、弁護士
樺山紘一	25. 4. 1	印刷博物館館長
山西潤一	27. 4. 1	富山大学名誉教授
小泉公二	27. 6. 25	(株)NHK出版代表取締役社長
今井純	29. 3. 16	NHK専務理事
松原洋一	28. 6. 29	NHK理事
松坂千尋	28. 6. 29	NHK広報局長

② 評議員の就任・退任

年月日	就任・退任	氏名
28. 6. 29	就任	坂本忠宣
〃	〃	松原洋一
〃	〃	松坂千尋
29. 3. 16	〃	今井純
28. 6. 29	退任	福井敬
〃	〃	今井純
〃	〃	大橋一三
29. 3. 16	〃	坂本忠宣

③ 評議員会

開催回	開催月日	議題
第167回	28. 6. 29	① 平成27年度事業報告および収支決算 ② 評議員の選任 ③ 役員を選任
第168回	29. 3. 16	① 評議員の選任 ② 平成29年度事業計画および収支予算

2 理事・監事・理事会

① 理事および監事（28年6月29日現在）

役職名	氏名	就任年月日	現職等
理事長	米 本 信	27. 6. 25	
専務理事	永 田 洋 一	28. 6. 29	
常務理事	佐々木貞夫	27. 6. 25	
常務理事	高 井 俊 和	28. 6. 29	
理事	金 山 伸 二	27. 7. 1	
理事(非常勤)	五十嵐耕一	27. 6. 25	(公財)岡崎嘉平太国際奨学財団理事長
理事(非常勤)	石 川 昌 平	27. 6. 25	(有)石川環境システム研究所代表取締役
理事(非常勤)	黒 羽 房 子	27. 6. 25	元(株)日本経済新聞社編集委員
理事(非常勤)	山 口 彭 子	27. 6. 25	武蔵野市教育委員会委員
理事(非常勤)	三 谷 行 夫	27. 6. 25	(株)NHKエンタープライズ取締役
監事(非常勤)	手 島 康 子	28. 6. 29	NHK関連事業局副部長、弁護士

② 理事、監事の就任・退任

年月日	役職	就任・退任	氏名
28. 6. 29	理事	重 任	永 田 洋 一
〃	理事	重 任	高 井 俊 和
〃	監事	就 任	手 島 康 子
〃	監事	退 任	河 内 秀 則

③ 理事会

開催回	開催月日	議 題
第 4 3 5 回	28. 6. 9	① 平成 27 年度事業報告および収支決算 ② 公益目的支出計画実施報告書 ③ 監事監査規程の策定 ④ 定時評議員会の開催 ⑤ 職務執行の状況
第 4 3 6 回	28. 6. 29	① 業務執行理事の選定 ② 役付理事の選定
第 4 3 7 回	29. 3. 9	① 平成 29 年度事業計画および収支予算 ② 臨時評議員会の開催 ③ 職務執行の状況 ④ 平成 28 年度内部監査実施結果報告 ⑤ 平成 29 年度内部監査年次計画

④ 理事および監事に支払った報酬の額

対象者	人数	報酬の額
理事	10名	74百万円
監事	1名	(無報酬)

(注) 非常勤理事については、理事会に出席の都度、定額を支給。

3 28年度末従業員数

243人

〔 東京：202人、大阪：13人、名古屋：6人、広島：5人、
福岡：5人、仙台：4人、札幌：5人、松山：3人 〕

事業報告の附属明細書については、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していない。